

令和元年度 第1回総合教育会議 摘録			
開会年月日	令和元年10月11日(金曜日) 午後2時		
閉会年月日	令和元年10月11日(金曜日) 午後3時		
開会場所	尾島庁舎 4階 大会議室		
協議事項			備考
(1) ICT教育について (2) その他(外国人児童生徒教育について)			
出席者	構成員	【市長】 清水 聖義	(欠席) 中島利香(委員)
		【教育委員会】 澁澤 啓史(教育長) 金田 克次(教育長職務代理者) 池田 光男(委員) 佐藤 真太郎(委員)	
出席者	事務局	【市長部局】 企画部長、企画部副部長、企画政策課長	書記・記録 教育総務課 担当職員1名
		【教育部】 教育部長、管理担当副部長、指導担当副部長、 教育総務課長、学校施設管理課長、学校施設 管理課主幹、文化財課長、歴史施設課長、青 少年課長、学校教育課長、市立太田高校事務 長、学校教育課指導係長、学校教育課担当、 教育総務課総務係長	
傍聴者	【一般】 21名 【報道機関】 2社		

I 開会

II 市長あいさつ（要旨）

- 過去の総合教育会議での具体的な成果は、義務教育学校設立に向けての動き、30人程度学級の前進、不登校の問題や学校給食調理員の不足問題解決のための協議等であった。
- 教育環境は決してバラ色ではないが、先生方が中心になって具体的な成果を上げてもらいたい。
- 過日の報道で、先生が先生を集団でいじめることがあった。本市では当然ないと思うが、気を付けてもらいたい。

III 教育長あいさつ（要旨）

- 過去の会議では色々な観点から、その時期で検討してきた。そこで市長から貴重な意見を頂戴し、結果的に色々な面で成果が出ており、感謝している。
- 義務教育学校は県内初であり、準備を進めれば進めるほど良さが新たに分かり、追随してくる他市町村も出てくるのではと期待している。
- 今日は新たに就任した委員もおり、忌憚のない意見交換をして、より良い機会にしたい。

IV 協議事項

（1）ICT教育について

〈市長〉

- 以前はコンピューター教室だった。あまりにも大事に作り過ぎて、鍵を掛けて子どもが入れないようにしていた。皆が自由に使えるように解放し、壊れるくらい使わせて、壊れたら補充するくらいでよい。ICTも同じで興味のある子にどんどん使わせてあげるのがよい。
- 言葉の教室など、特別な教室で特別な授業を行うところを優先的に、まずは必要なところに配備していけばよい。

〈佐藤委員〉

- 有用性が高い一方で、遊びにも使えてしまうので、ガイドラインに則ってやっていくことが望ましい。
- ICTを配って自由に授業をすると、かなり自由度が高くなってしまいうし、それしか使わなくなってしまう教員もおり、学習能力が画一的になってしまうことが懸念される。
- ベースに独自のアプリケーションがあつて、教科書検定を受けた教材で、学習指導要領に則ってやるべき。また、年度始めに講習会をやった方がよい。

〈池田委員〉

- （ICTを使う）先生のレベルが問われる。
- ICTなど、機械類は子どもの方が覚えが早い。

〈金田委員〉

- 教具の1つとして文明の利器を使うのは良いが、全てパソコンやICTが万能薬ではない。
- 過去、市長が他に先んじて特別養護学校にパソコンを導入した経緯があったが、さすが先見の明があると感じた。

〈教育長〉

- 情緒学級や通級学級では、（ICTを使うことによって）映像・視覚効果で子どもたちの学習意欲や関心が高まり、非常に（教育）効果が出ている。
- 通級学級の先生も導入を熱望している。指導する側もやりがいがある。
- ICTは3ヵ年計画で小中学校に配備し、自由に使える計画で進めている。

〈市長〉

- 導入後は、教育委員会や総合教育会議などに成果報告し、しっかり検証すること。
- ICTの導入後は、鍵をかけずに自由に子どもたちに使わせるようにしてほしい。
- 財政当局に新年度予算に要求して。

（2）その他（外国人児童生徒教育について）

— 背景 —

令和元年5月現在、外国人児童生徒の在籍数は26ヵ国667人で、うち日本語指導が必要な児童生徒は432人である。特にベトナム、中国が多く、指導者が不足している。

過日「先端工学とその教育に関する国際会議」において、本市のきめ細かな取り組み状況を説明するなど、県内では進んでいるが、これからの教育課題となるべき議題である。

〈池田委員〉

- 本市の（外国人児童生徒教育の）取り組み状況を（県内外に）発信すれば、すごい反響があると思う。

〈教育長〉

- 市長に、ぜひ色々ところで宣伝をお願いしたい。

〈市長〉

- 次の全国市長会で（取り組み状況の）発表してもらいたい。
- 日本語が分からず、授業に付いていけない子どもたちは、放課後に残って集中的に授業を受けてもらう『残り勉強』をしてもらったらどうか。

- 大学まで行った子に、学校に呼んで話をしてもらおうのがよい。子どもたちに希望を持たせることになる。
- 大東文化大学に通っている留学生を太田に呼んで、教えるのはどうか。
- 夏期・冬期・春期に、集中講座をしてもらおう。泊る場所は市営住宅を使ってもらおうのがよい。

〈佐藤委員〉

- インターンシップのイメージ。講義時間をずらして単位化すればいい。
- 比較的講義時間も少なくなる4年生がいいのでは。
- 大東文化大学の理事である市長に、ぜひ提案してみてください。

〈教育長〉

- 喫緊の課題はベトナムと中国。
- ベトナム語の先生は、日本語指導助手として現在2人しかいない。

〈池田委員〉

- ベトナム人は優秀な子が多い。
- 長期休みに、アルバイト料を払って、大東文化大学の留学生に太田に来てもらうシステムを作ってみてはどうか。
- 留学生も、自分たちの国の子どもたちに教えたという大きな財産やそれぞれの能力にもなる。最終的には、太田に定着してもらい、産業界などに入って太田市の戦力になってもらいたい。
- 一度試してみて、どのくらいの予算が必要なのか、ターゲットはどうするのか、検討してみてください。

〈金田委員〉

- 相手の言葉に合わせてこちらも(外国人の)指導者を用意しなくてもいいのでは。外国人(ベトナム人や中国人)の指導者ではなく、人を付けてもらえばよい。
- 最終目標は、日本語を学び、日本語で理解をし、国語や算数などの教育の成果を上げることである。
- 最善の効果を求めるならば、チューターの用意となる。我々もある程度時間を待つしか方法はないのでは。基本は早く日本語を覚えてもらうことだ。

〈市長〉

- 土台がいい子がいるけど、チャンスを逃してしまう子がいるかもしれないし、子どもたちはすぐに中学生になってしまうので、あまり気長に待ってもいられない。
- (日本語を)しゃべれるようになるのと、日本語で勉強するのは別問題で、後者の方はなかなか大変だ。

〈教育長〉

○社会や理科は余計にハードルが高い。比較的算数は取り組みやすい。

— まとめ —

〈教育長〉

議題（１）については、特別支援の子どもたちにICTを導入するという意見だけでも喜んでくれている。新年度に予算要求し、財政当局と協議していきたい。また、議題（２）については、いい意見が沢山出たので、どういう指導をすれば子どもたちにプラスになるのか、担当側で色々と検討をしていきたい。

V 閉会